

2025年「ハロウィーン」の行事参加予定者は2年連続減少も 20・30代女性が「食」に関する過ごし方を楽しみにしており 40～60代男性は「外食」関連の過ごし方に積極的

2025年「ハロウィーン」への参加意向・賛否の理由等を調査（2025年9月実施）

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）の外食市場に関する調査・研究機関『ホットペッパーグルメ外食総研』（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、2025年の「ハロウィーン」への参加意向、賛否等に関する意識についてのアンケートを実施しましたので、その結果を発表いたします。

<要約>

POINT1 2025年「ハロウィーン」行事参加予定者は15.7%、2年連続して減少 ・・・ P3

▶2025年の「ハロウィーン」行事参加予定者は3圏域計で15.7%と、前年の16.1%を下回り、2年連続して減少している。ただし、前年の参加実績14.9%（2025年に調査）と比べると0.8ポイント上回る結果となった。

POINT2 20・30代女性が「食」に関する過ごし方を楽しみにしている様子 ・・・ P4-7

▶「ハロウィーン」と一緒に過ごしたい相手、1位「友人・知人」8.9%で3年連続して最多。2位「夫婦二人で」7.2%、3位「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」6.6%。

▶過ごし方の希望は、1位「家で過ごしたい」16.3%、2位「ハロウィーンスイーツを食べたい」9.8%、3位「外食を楽しみたい」6.9%、4位「かぼちゃ料理を食べたい」6.7%、5位「飲酒を楽しみたい」6.4%。20・30代女性はハロウィーンで「食」に関わる過ごし方の希望が多い。

▶最も楽しみにしている過ごし方は、1位「家で過ごしたい」23.3%、2位「ハロウィーンスイーツを食べたい」12.6%、3位「外食を楽しみたい」8.7%、4位「飲酒を楽しみたい」6.3%、5位「子どもにお菓子をあげたい・配りたい」5.6%。外食関連では40～60代男性が積極的。

POINT3 年代が上がるほど「ハロウィーン」に否定的な理由を選択する割合が増える傾向。肯定的な理由「日本風に楽しめば良い」、否定的な理由「自分には関係ない」 ・・・ P7-8

▶「ハロウィーン」に肯定的な理由の回答数と否定的な理由の回答数を集計すると、「否定優位派」が52.8%と「肯定優位派」の38.3%を上回った。ただし、年代による差が大きく、男女ともおおむね年代が上がるほど「肯定優位派」が減り、「否定優位派」が増える傾向にある。

▶「ハロウィーン」に肯定的な理由、1位「本来の意味と違っても日本風に楽しめば良い」15.8%、2位「子どものためのお祭りとして良い」14.3%、3位「経済効果がある」13.7%。「ハロウィーン」に否定的な理由、1位「自分には関係がないように思う」30.8%、2位「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」21.0%、3位「本来の意味や趣旨を理解すべきだ」13.9%。30・40代女性で「子どものためのお祭りとして良い」、50・60代男女で「自分には関係がないように思う」が、他の性年代と比べ割合が高い。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

調査概要と回答者プロフィール

◎調査名	外食市場調査（2025年8月度）
◎調査方法	インターネットによる調査
	首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査（外食市場調査）の中で、ハロウィーンに関連した飲食・パーティー・イベントの参加状況や参加意向、今年のハロウィーンは誰とどのように過ごしたいか、ハロウィーンに対する考え方などを聴取。
◎調査対象	首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県）、東海圏（愛知県、岐阜県、三重県）に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

■事前調査

①調査目的	本調査の協力者を募集するために実施
②調査期間	2025年7月16日（水）～ 2025年8月5日（火）
③調査対象	首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
④調査内容	本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
⑤配信数	531,887 件
⑥回収数	27,577 件
⑦本調査対象者数	11,060 件

◆本調査対象者の割付について

- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
- ・性年代別10区分×地域別25区分（首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分）＝250セルについて、令和5年人口推計（総務省）に基づき割付を行った。
- ・本調査の目標回収数は、首都圏3,200s、関西圏1,600 s、東海圏1,600 s、合計6,400 sとした。

■本調査

①調査方法	事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
②調査期間	2025年9月1日（月）～ 2025年9月10日（水）
③配信数	10,368 件
④回収数	7,695 件 (回収率 74.2 %)
⑤有効回答数	7,631 件 (首都圏 3,915 件、関西圏 2,064 件、東海圏 1,652 件)

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないと判断された票を無効としたほか、

事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1ヵ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、

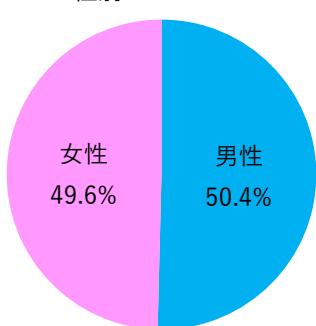
事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

◆集計方法について

- ・本調査結果は、令和5年人口推計（総務省）における割付（性年代別10区分×地域別25区分＝250セル）別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
- ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 7,631 件（首都圏 4,442 件、関西圏 2,045 件、東海圏 1,144 件）
- ・構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計が100%とならない場合がある。
- ・ウェイトバックによる集計を行っているため、実数表記している項目について、各項目の数値の合計が全体の数値と一致しない場合がある。

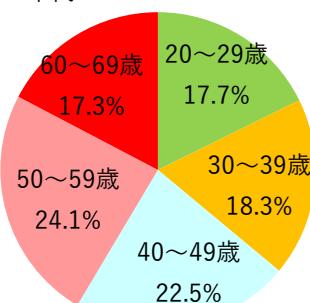
◆回答者プロフィール（ウェイトバック後）

■性別



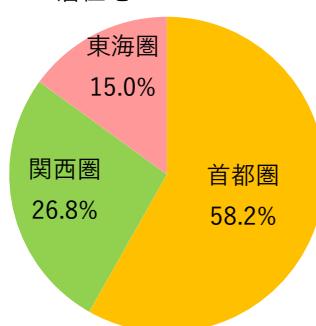
n=7,631

■年代



n=7,631

■居住地

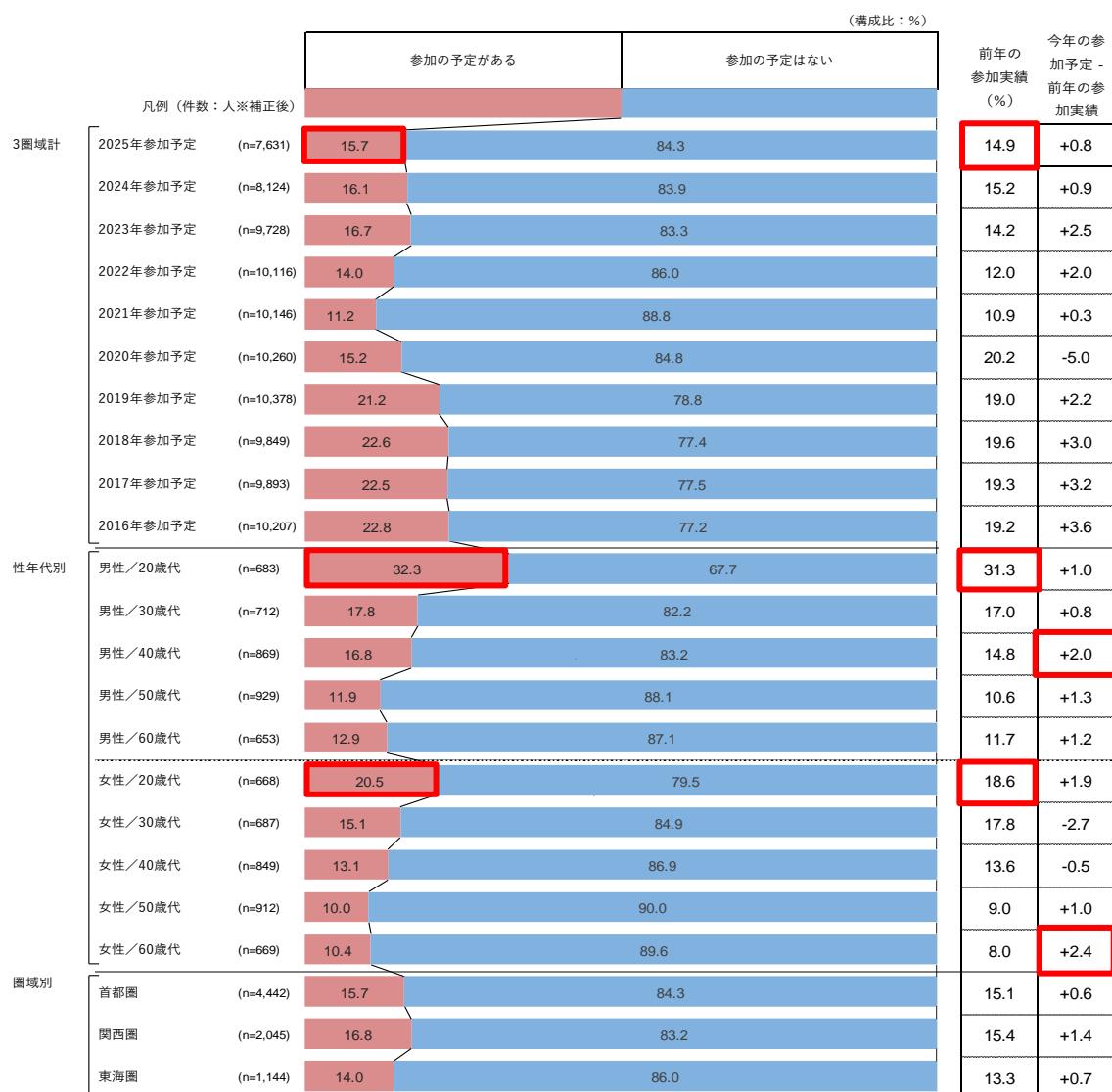


n=7,631

1. 2025年「ハロウィーン」行事参加予定者は15.7%、2年連続して減少

今年も「ハロウィーン」の季節がやってくる。2025年の行事参加予定については3圏域計で15.7%と、前年の16.1%を下回り、2年連続して減少している。ただし、前年の参加実績14.9%（2025年に調査）と比べると0.8ポイント上回る結果となった。参加実績は2021年から3年連続で増加した後に2024年は減少しており、今年はどうなるか注目だ。参加予定率が最も高かったのは男女とも20代で、20代男性では32.3%、20代女性では20.5%が参加予定と回答している。前年の参加実績と比べると、60代女性（+2.4ポイント）や40代男性（+2.0ポイント）等で参加予定が前年実績より増加している。

ハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベントについて、今年の参加予定（全体／単一回答）



*「参加予定」の各データは、当年度調査で聴取した、当年度の「参加したい割合」を示す。

*「前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、前年度の参加実績を示す。

*「今年の参加予定 - 前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、「当年度の『参加したい』割合」 - 「前年度の参加実績」で算出。

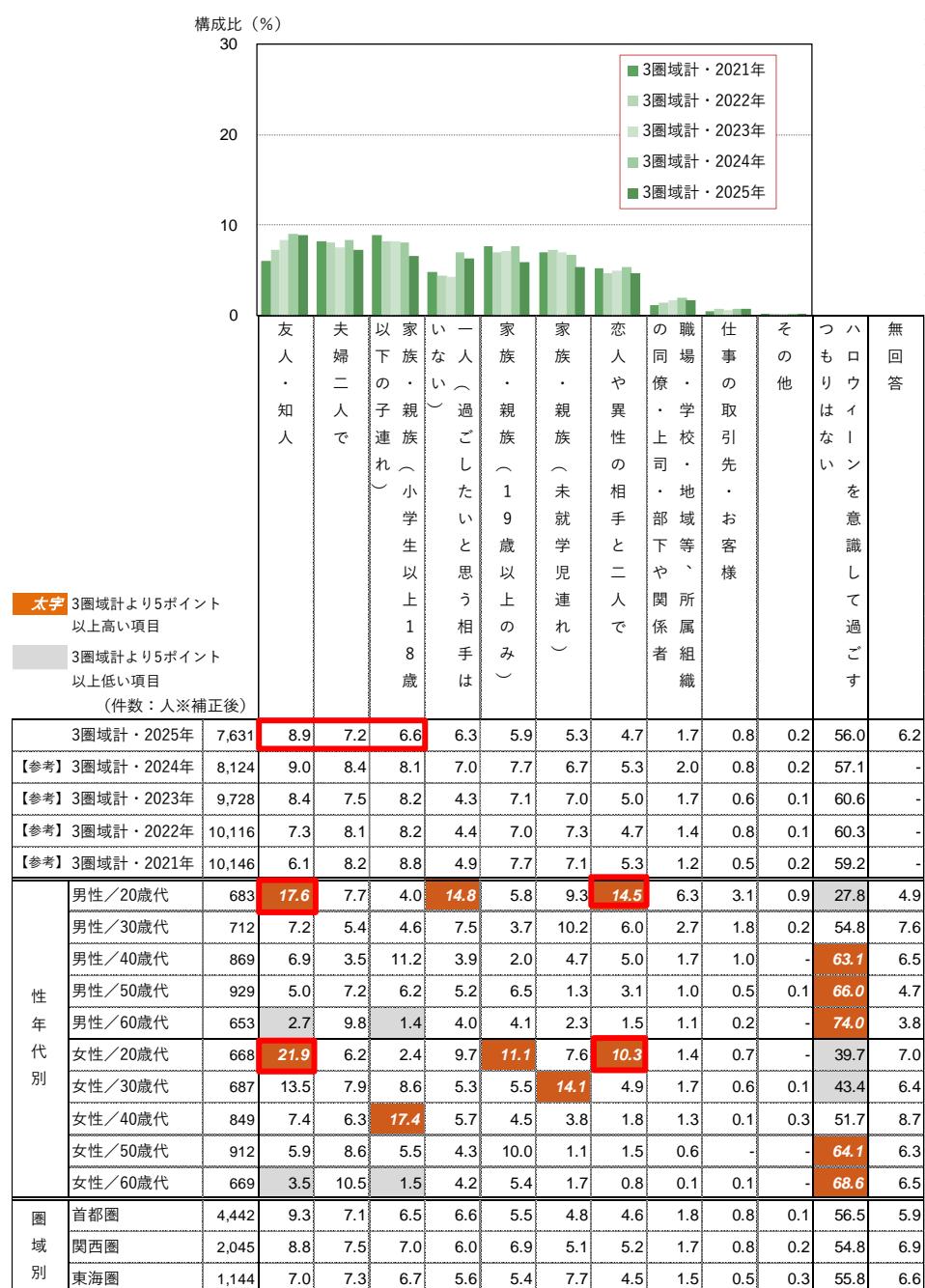
※「参加の予定がある」：『今年参加したいハロウィーンに関する飲食、パーティー、イベント』の「自分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」で、いずれかの飲食、パーティー、イベントに「参加したい」と回答した人を集計。

※「参加の予定はない」：『今年参加したいハロウィーンに関する飲食、パーティー、イベント』の「自分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」とともに「参加の予定はない」と回答した人を集計。

2. 2025年の「ハロウィーン」と一緒に過ごしたい相手は「友人・知人」が3年連続で最多に

2025年の「ハロウィーン」を誰と過ごしたいか聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外は僅差だが、1位は「友人・知人」で8.9%と、3年連続して最多となった。「友人・知人」は、2021年の5位から、2022年は3位、2023・2024年は1位と順位を上げ、家族中心の集まりであったコロナ禍中のハロウィーンから平時に完全に戻った様子だ。2位は「夫婦二人で」で7.2%、3位は「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」が6.6%であった。性年代別では、20代の男女が一緒に過ごしたい相手として「友人・知人」「恋人や異性の相手と二人で」等が他の性年代よりも目立つことが多い。

今年のハロウィーンは誰と過ごしたいか（全体／複数回答）



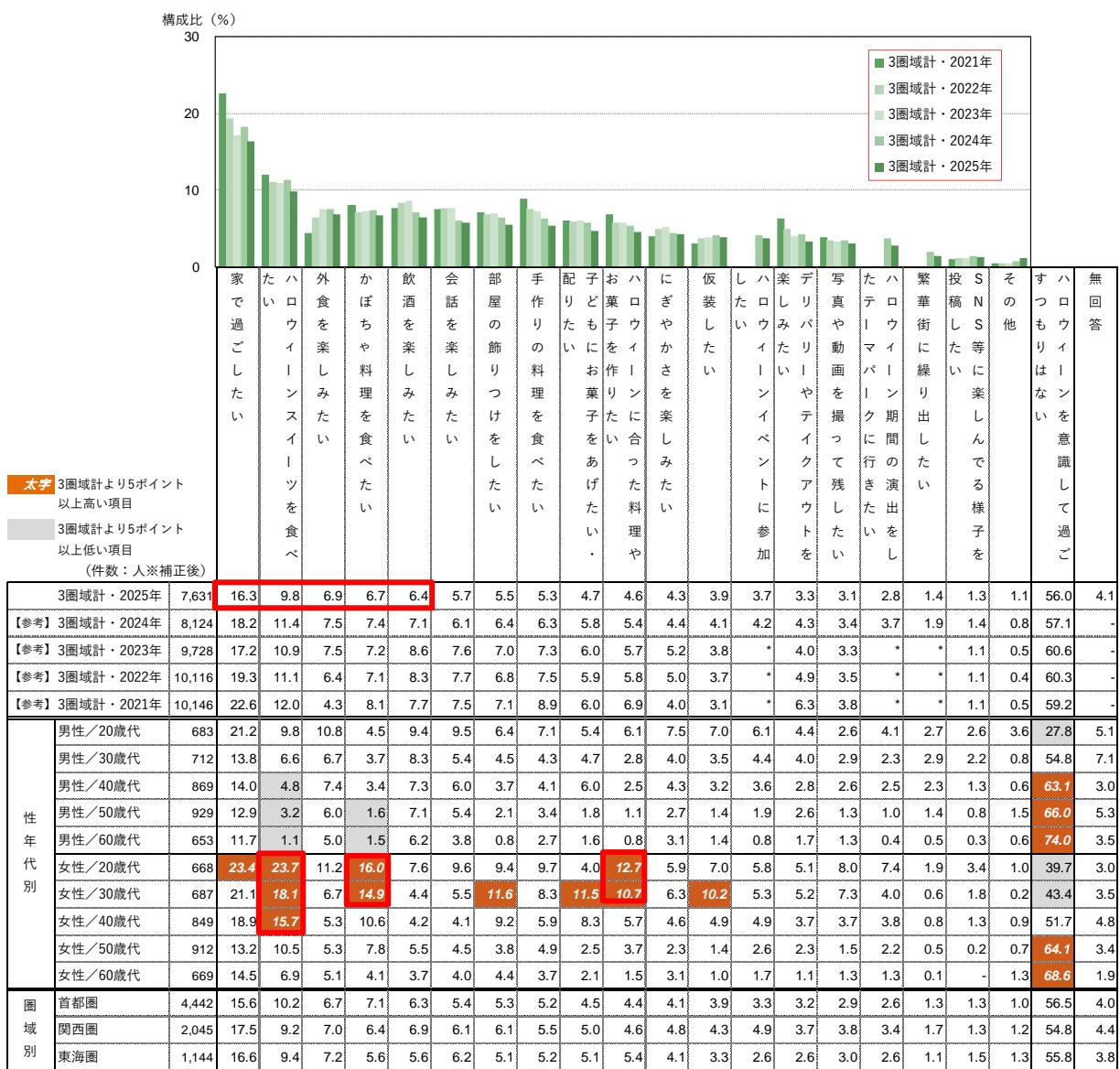
※2024年までは「誰と過ごしたいか」「どのように過ごしたいか」からそれぞれ1つ以上選択させる制御を実施していたが、2025年はいずれか一方のみの選択も可とした。このため、2024年以前との経年比較は参考値として掲載している（P5も同）。

※「誰と過ごしたいか」を未選択で「どのように過ごしたいか」のみ回答した人は無回答として集計している。

3. 20・30代女性が2025年の「ハロウィーン」で「食」に関する過ごし方を楽しみにしている様子

2025 年の「ハロウィーン」の過ごし方の希望を聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外でのトップ 5 は、1 位は「家で過ごしたい」で 16.3%、2 位は「ハロウィーンスイーツを食べたい」で 9.8%、3 位は「外食を楽しみたい」で 6.9%、4 位は「かぼちゃ料理を食べたい」で 6.7%、5 位は「飲酒を楽しみたい」が 6.4% となっており、順位は前年と変わっていない。性年代別では、20~40 代女性は「ハロウィーンスイーツを食べたい」、20・30 代女性は「かぼちゃ料理を食べたい」「ハロウィーンに合った料理やお菓子を作りたい」が他の性年代に比べ高く、20・30 代の若年女性を中心にハロウィーンで「食」に関わる過ごし方を楽しみにしている様子がうかがえる。

今年のハロウィーンはどのように過ごしたいか（全体／複数回答）



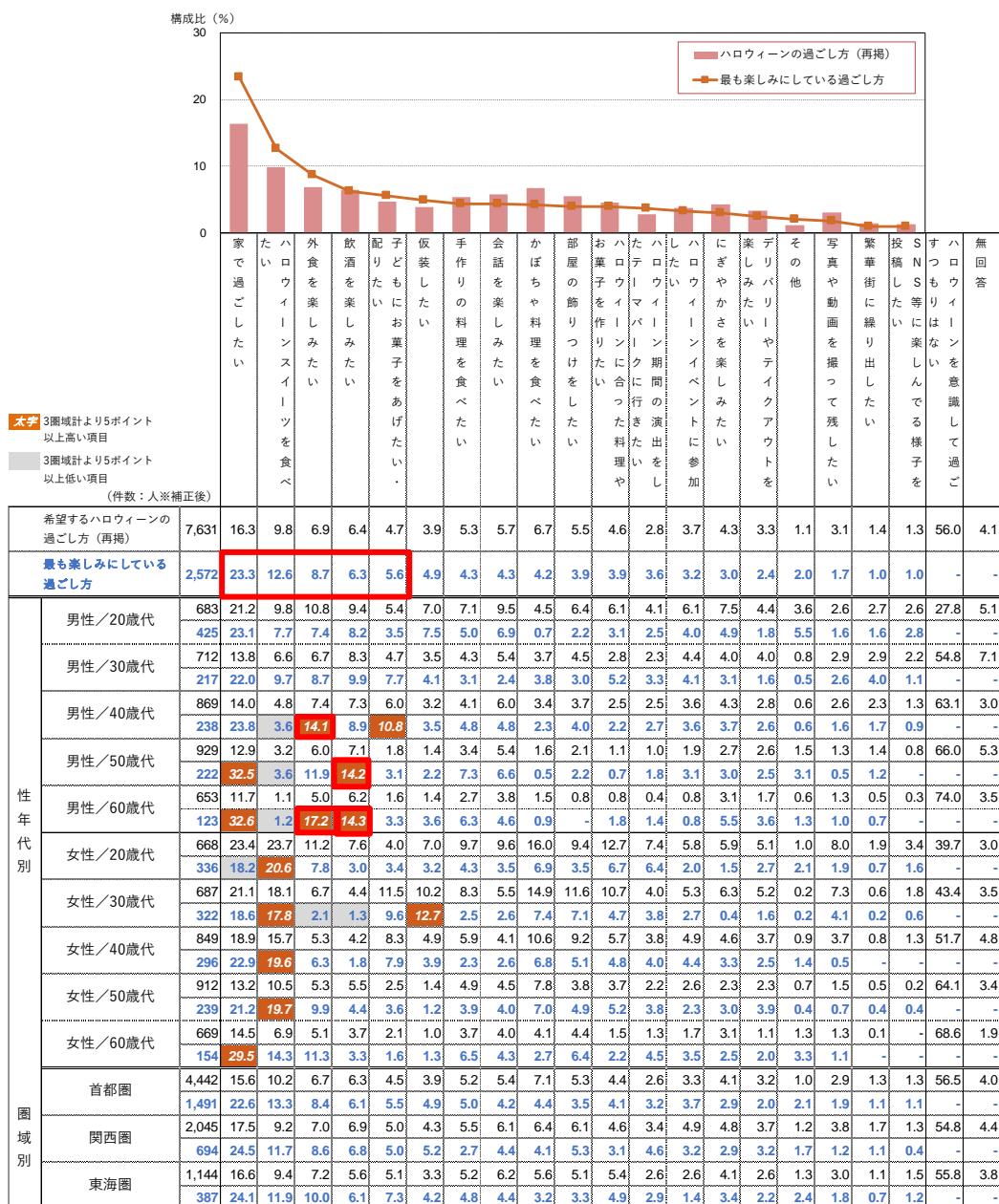
*該当項目なし

※「どのように過ごしたいか」を未選択で「誰と過ごしたいか」のみ回答した人は無回答として集計している。

4. 「ハロウィーン外食」関連では、40~60代男性が積極的

前ページで希望する「ハロウィーン」の過ごし方があった人（2,572人）に、今年の「ハロウィーン」で最も楽しみにしている過ごし方を聞いた。トップ5は、1位は「家で過ごしたい」で23.3%、2位は「ハロウィーンスイーツを食べたい」で12.6%、3位は「外食を楽しみたい」で8.7%、4位は「飲酒を楽しみたい」で6.3%、5位は「子どもにお菓子をあげたい・配りたい」が5.6%。「飲酒を楽しみたい」「子どもにお菓子をあげたい・配りたい」で前ページの「ハロウィーン」の過ごし方から順位を上げた。性年代別の外食関連項目では、40・60代男性で「外食を楽しみたい」、50・60代男性で「飲酒を楽しみたい」が他の性年代に比べ高くなっている。

今年のハロウィーンで、最も楽しみにしている過ごし方（今年のハロウィーンをどのように過ごしたいかのいずれか回答者／単一回答）



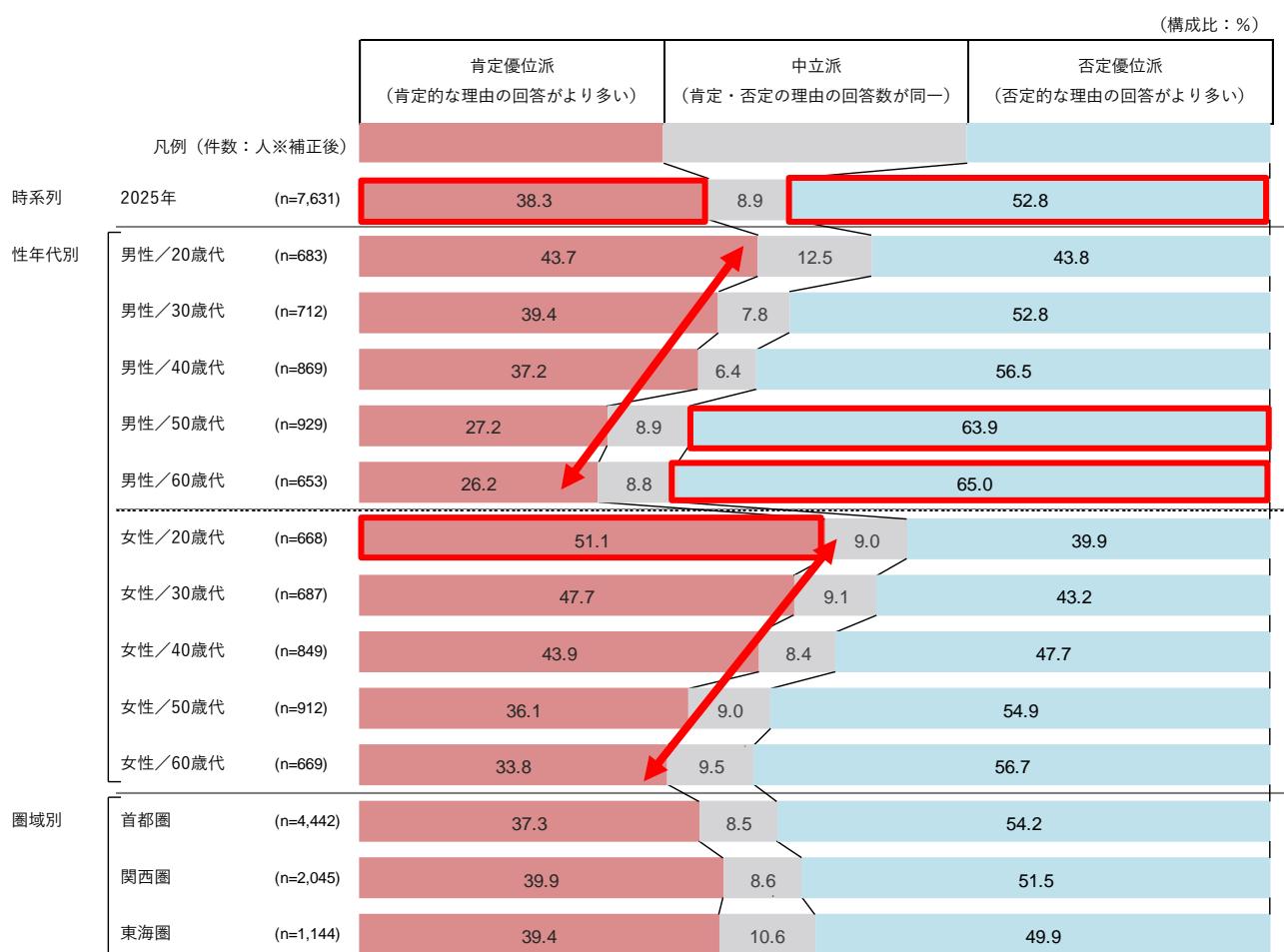
※最も楽しみにしている過ごし方の多い順にソート

※「どのように過ごしたいか」を未選択で「誰と過ごしたいか」のみ回答した人は無回答として集計している。

5. 年代が上がるほど「ハロウィーン」に否定的な理由を選択する割合が増える傾向

「ハロウィーン」に肯定的な理由の回答数と否定的な理由の回答数を集計すると、「否定優位派」が 52.8% と「肯定優位派」の 38.3% を上回った。ただし、性年代別では、20 代女性では「肯定優位派」が 51.1% と過半数を超えており、男性の 50・60 代では「否定優位派」が 6 割を超えており、性年代による差が大きい。男女ともおおむね年代が上がるほど「肯定優位派」が減り、「否定優位派」が増える傾向にある。

ハロウィーンを日本で祝ったり、広まったり、仮装したりすることをどのように思うか（全体／複数回答を単一化）



※2024 年までは『「ハロウィーンについての考え方』の理由』設問で、肯定的理由または否定的理由のいずれか一方のみを選択可能とする制御を実施していたが、2025 年はこの制御を解除し設問形式を変更した。母集団の性質が異なるため、過去データは掲載していない。

※肯定優位派（肯定的な理由の回答がより多い）：『「ハロウィーンについての考え方』の理由』で、肯定的な理由の選択数が否定的な理由の選択数より多い人を集計。

※中立派（肯定・否定の理由の回答数が同一）：『「ハロウィーンについての考え方』の理由』で、肯定的な

理由と否定的な理由の選択数が同数だった回答者を集計。

※否定優位派（否定的な理由の回答がより多い）：『「ハロウィーンについての考え方」の理由』で、否定的な理由の選択数が肯定的な理由の選択数より多い回答者を集計。

6. 「ハロウィーン」に肯定的な理由「日本風に楽しめば良い」、否定的な理由「自分には関係ない」

「ハロウィーン」に肯定的な理由は、1位は「本来の意味と違っても日本風に楽しめば良い」(15.8%)、2位は「子どものためのお祭りとして良い」(14.3%)、3位は「経済効果がある」(13.7%)。否定的な理由は、1位は「自分には関係がないように思う」(30.8%)、2位は「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」(21.0%)、3位は「本来の意味や趣旨を理解すべきだ」(13.9%)であった。性年代別では、30・40代女性で「子どものためのお祭りとして良い」、50・60代男女で「自分には関係がないように思う」が他の性年代と比べ高かった。

「ハロウィーンについての考え方」の理由／肯定的な理由・否定的な理由（全体／複数回答）



※3調査・2025年の多い順にノード
※2024年までは『「ハロウィーンについての考え方」の理由』設問で、肯定的理由または否定的理由のいずれか一方のみを選択可能とする制御を実施していたが、2025年はこの制御を解除し設問形式を変更した。母集団の性質が異なるため、過去データは掲載していない

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、人材派遣、マーケティング・マッチング・テクノロジーの3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>